

## 北九州市立障害者施設 第1回指定管理者検討会 会議録

1 開催日時 令和7年6月16日（月）15:00～15:40

2 場 所 北九州市役所 10階 10C会議室

3 出席者 （検討会構成員等）伊野構成員、門田構成員、  
高橋構成員、田村構成員、森構成員  
（事務局）保健福祉局障害福祉部長、障害者支援課長、  
障害福祉施設係長、他1名

### 4 議 題

門司障害者地域活動センター及び小倉南障害者地域活動センターの条件付公募方式採用の妥当性審査

### 5 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出
- 検討会の位置づけ及び検討会の進め方等について、事務局より説明。
- 施設の管理運営に関する要求水準及び条件付き公募方式採用の理由等について事務局より説明。

#### ○質疑応答・意見

（構成員）門司障害者地域活動センターの運営法人は、「障害者支援施設 母原」の建て替え工事を実施し、建築資材の高騰のため、資産の取り崩しを行っているようだが、法人の経営状況はどのようなものか。

（事務局）門司障害者地域活動センターの運営法人である社会福祉法人あすなろ学園は、令和5年度に「障害者支援施設 母原」の建て替え工事に着手したものの、建設資材の高騰等のため工期が延び、令和6年度に完成、令和7年4月にオープンしている。このため、法人の負担が大きくなっているが、経営状況としては適正な範囲であると考えている。市補助金を活用して施設整備を行った法人であり、市としては、今後も経営状況の確認を行っていく予定である。

（構成員）条件付き公募を採用しない場合に、事業者が変わることで利用者側にもどの程度の不利益があるのかを確認したい。また、両施設とも同じ事業者が20年近く管理運営を行っており、評価も問題ないとのことだが、条件付き公募が今回採用されると、さらに5年間、同じ法人が運営を担うことになる。より良いサービスの提供という観点から、1法人

のみを審査する条件付き公募の外に、優先枠の1法人とは別の法人にアイデアを出してもらう仕組みがあった方が良いのか、というあたりを皆様に教えていただきたい。

(事務局) 両施設については、「利用者との継続的な信頼関係や高度な専門性を有する人材、長期間の人材育成が特に必要な施設」であることを踏まえ、条件付き公募を提案している。構成員お尋ねの別の法人にアイデアを出してもらう仕組みについては、事業者が変わるかもしれないと、利用者や家族の不安が非常に大きいと考えている。

(構成員) 様々な障害を抱える方々がおられる中、事業者は時間をかけながらより良いサポートを考えていくことになる。職員が変わってしまうと個々の利用者の特性を一から理解し直す必要があり、新たな事業者へ移行することによって、サポートのギャップが大きくなると思う。利用者や家族のことを考えたときには、継続してサポートする体制が続く方が良いと考える。

(構成員) 当事者である利用者や親・家族にとって、事業者が変わることで支援者ががらりと変わってしまうと、かなり混乱すると思う。事業者が変わらないことがいいことばかりではないのかもしれないが、継続した支援が行われることは、利用者や家族にとって有り難い。ただし、運営の状況については、チェックしてもらいたい

(構成員) 利用者は担当職員の異動だけでも不安に感じている。同じ事業者が継続していく良さちゃんと第三者の目が入るところがあるのかどうかなどは注意して見ていただきたいと思う。

○ 構成員は質疑応答を受けて各自条件付き公募方式採用の妥当性の有無を記入し発表。(構成員全員が「妥当性有り」と記入) その後、構成員全員で意見交換。

【門司障害者地域活動センター及び小倉南障害者地域活動センターについて】

(構成員) (両施設ともに) 入所施設の支援であり、重度障害者の支援も多いため、「妥当性有り」と判断する。

(構成員) (両施設ともに) 入所施設であるとともに、利用者や保護者との信頼関係やコミュニケーション、ケア方法が長年築かれており、専門的な支援が行われているため、「妥当性有り」と判断する。

(構成員) (両施設ともに) 入所施設で利用者との信頼関係が必要であり、事業者が変わると利用者の不安感や負担感が増すことから、なるべく継続することが望ましいため、「妥当性有り」として問題ない。今後の事業者ヒアリングにおいて、指定管理者としての妥当性やサービス向上に向けた考え方を確認したい。

(構成員) 第一種社会福祉事業である入所施設の場合は、行政機関又は社会福祉

法人に運営が限られるとともに、「利用者との信頼関係が特に必要」、「人材について高度な専門性が必要」「継続的に管理運営を行っている」ため、（両施設ともに）「妥当性有り」と判断する。

（構成員）（両施設ともに）入所施設であり、高度な専門性のある人材が必要であり、人材育成には長い期間が必要となる。利用者から見て、支援者が全員変わることは、不安につながり、生活が不安定となることから、「妥当性有り」と判断する。

○ 検討会の意見を受け、条件付き公募方式採用の妥当性の判断について、事務局より説明。

（事務局）両施設について、条件付き公募方式を採用することに「妥当性有り」との審査結果をいただいた。この結論を踏まえ、市として最終的な判断を行い、条件付き公募に必要な手続きを進めてまいりたい。

## 北九州市立障害者施設 第2回指定管理者検討会 会議録

1 開催日時 令和7年10月9日（木）10:00～11:40

2 場 所 北九州市役所 15階 15D会議室

3 出席者 （検討会構成員等）伊野構成員、門田構成員、  
高橋構成員、田村構成員、森構成員  
（事務局） 保健福祉局障害福祉部長、障害者支援課長、  
障害福祉施設係長、他1名

### 4 議 題

門司障害者地域活動センター及び小倉南障害者地域活動センターに係る指定管理者候補の選定審査【条件付公募施設】

### 5 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局から説明
- 指定管理者候補の選定基準、適否選択の注意事項等について、事務局から説明
- 申請団体から提案概要に関してヒアリングと質疑応答

#### ① 門司障害者地域活動センター

（構成員）工賃（月額）について、令和3年度からの期間で1万円台の目標が未達成の中、今回は、令和8年度の9,200円から令和12年度の1万1,300円に向けて上昇的な工賃を目標としている背景を教えてほしい。また、生活介護の利用者満足度について、令和8年度の79%から上昇傾向の目標となっているが、令和3年度の86.6%から令和6年度の78.5%と実績が減少傾向となっている背景を教えてほしい。併せて、就労支援と入所施設は90%台の目標に対して、生活介護は80%台に抑えている理由も教えてほしい。

（申請団体）工賃については、12月と3月のボーナス等を含め、月平均で1万円を超える目標を設定している。また、生活介護については、コロナ禍で通所を控える傾向が現在も続いており、利用者満足度に影響している。利用者や家族のアンケートに基づき、食事メニューの改善や食事のみの外出体験、買い物体験を行うとともに、毎月1回の音楽療法や3か月毎の講師を招いたアート作品作り等を実施することで、活動自体の満足度を上げている。

（構成員）なるべく臨時休業をしないことや家族との合同懇談会の実施、家族のレスパイトなどよく考えて運営されているが、そのことで職員が負

担になったり、送迎車の安全な運行ができなかったりなどの課題はないか。また、委託職員の配置はどのようにしているか。最後に、買い物支援バスを独自に運行しているが、概要を教えてください。

(申請団体) ご指摘のとおり、臨時休業をしないことによる職員の負担はある。悪天候時は、安全のために送迎車の運行を止めるが、センター自体は閉めずに自由に来所してもらっている。また、委託職員は、高齢者能力活用センターを通じて高齢者の活用を図っている。高齢者は接遇面がしっかりしており、家族に安心感を与えている。買い物支援バスは、近隣の伊川地区等に住む高齢者の買い物支援や通院などのため、毎週水曜・木曜の2回、送迎車を活用し、好評を頂いている。

(構成員) 60年近く法人を運営している中で、最近、障害者施設を新築し、300%ぐらいあった流動比率が少し下がっている。食費など物価高騰もあるが、収支予算内に収まるのか。

(申請団体) 障害者支援施設の母原の建て替えに伴う借入金が3億6,000万円で、年間では、一番多い令和8年度で2,200万円の返済となる。母原の令和6年度の活動増減差額が8,200万であるため、母原単独で十分な返済能力があると考えている。今後、母原に関しては、今の収益を最低限キープ、または、さらなる上積みを見込んでおり、今後30年に渡って母原単独で返済することが可能と考えている。物価高騰に関しては、企業努力で何とかなる範囲だが、一番の懸念は昨今の最低賃金の上昇である。

(構成員) SNSを始めるなど広報活動の充実が書かれているが、広報誌とホームページ・SNSでの使い分けの工夫や媒体ごとのターゲットは定めているか。次に、基本方針として地域で安心して暮らすことができる社会の実現がうたわれており、あまり障害者と接点がない人にどのように接して、一緒になっていくのかが重要と思うが障害者と関わりがないような人達向けのコンテンツの発信がやや弱い印象を持った。今後そのあたりを充実させるために、現在取り組んでいることがあれば教えてください。最後に利用者のアート作品について、アート作品もコンピューターで作って売る時代に入っており、ブロックチェーン技術を使った所有権や著作権を持ったものの資産価値が上がるようになっている。福祉的な要素で実際にアート作品を作ることも重要だが、Instagramを始めたことをきっかけに、デジタルで福祉を変えていくこと、時代に合わせて作るものの形を変え、デジタル的なサービスで売り方を変えることも考えてもらいたい。

(申請団体) 広報活動について、広報誌を年4回、定期的に発行している。SNSについては、ダイレクトに利用者のその日の様子が分かることから、通所でその日その日を楽しみにしている保護者もいるほか、例えば、過去に働いていた職員や、利用者と疎遠になっている家族とダイレク

ト・メッセージ機能でつながったり、バザーの呼びかけで門司活商品を紹介するなど、これまで繋がっていなかった方にInstagramの発信力を活かして取り組んでいる。最近、福祉以外の他業種に啓発的に足を運ぶ職員もいる。言うなれば世代交代というところで、Instagramもそうだが、商品開発も若い職員の発想力で今のニーズに合ったデザインに変わってきている。アート作品作りについて、AIを活用するICTのことかと思うが、現状はアナログ的であり、絵やデザインが得意な利用者の自立を目標に力を入れている。また、絹糸を題材にした創作活動も行っている。知的障害者の感性や表現力を引き出し、作品として販売できるようになれば、自立につながると考えている。

(構成員) 身体拘束や虐待の防止策で、緊急やむを得ない行動制限について、保護者の同意をもらっているとあるが、同意がもらえないケースはあるのか。やむを得ないというのは、利用者の行動が本人にとって危ないから止めないといけないための同意書なのかが気になった。次に、アート作品づくりに力を入れているが、それほどアートが好きではない利用者に対しては何か軽作業などはやっていないのか。最後に、地域との関わりや海の環境保全などを行っており、障害者が地域や事業所、観光地、園芸作業などに出ていく糸口になると思うが、今後何か広がっていく、新しいことは考えているか。

(申請団体) 身体拘束の同意書について、例えば注射や採血のとき、利用者の中には、純粋に痛みが嫌だったり、針を見て怖かったり、医者に恐怖心を抱いている方などもいる。なるべく職員が付き添って、安心してもらうようにしているが、注射の時に動いてしまわないように利用者の手を握ったり、体を支えたりすることがある。また、パニックを起こして壁に自身の頭を打ちつける方や近くにいる人を突き飛ばす行動が出る方は、体を張って止めざるを得ない。部屋に行ってクールダウンするため、一時的に部屋に誘導することもある。そのような方には必ず同意書を取るようにしている。どうしても拒否される場合に強要することはないが、ご家族にも経験があることが多く、事情を説明すればご理解いただけるので、しっかりコミュニケーションを取るようにしている。次に、利用者の意思が反映されずにアート活動の場に連れてこられているとのイメージもあるが、重度の言語障害の方でも、絹糸に触るだけでも感触がよい笑顔になる。そういう触れる機会をもう少し増やしたいと思っている。最後に、生活介護の活動で散策を行っているが、門司地区は古い歴史や史跡があり、山あり海ありで流木やシーグラスなどを題材にした作品づくりに取り入れられる。職員がボランティアで地域の人と関係性をつくったりなど、小さいところから始めて、広げていきたい。法人全体としては、例えば農福連携事業や地域の方を呼び込む動きをしており、法人全体の取り組みとして門司活にも進めていきたい。

## ② 小倉南障害者地域活動センター

(構成員) コロナの影響で令和4年度に財政が悪化し、令和6年度は回復しているが、今後コロナなどの流行でショートステイを終了する場合、長く利用している方がたくさんいる中でどのように対応するのか。また、例えば、ショートステイを閉鎖しないといけないような場合、従業員が職を失うということもあり得るが、そのような場合の対応はどのように考えているか。

(申請団体) コロナでクラスターが出た時でも、感染症対策を図りつつ、ショートステイを完全に止める期間は2週間ぐらいと考えている。通所の閉鎖時も、法人全体で調整して、職員が他の部署で活躍できる場を設けているため、離職は想定していない。身体障害の利用者が多く、家族での介護はとても大変なので、できるだけ受け入れ体制を整えたい。職員もこのコロナ禍でスキルがどんどん成長しており、対応する術を持っていると自負している。

(構成員) 令和3年から令和4年にかけて、入所と就労支援の満足度が10ポイント以上も下がっている。その後は回復しているが、満足度急落の理由は何であり、どういう対応で回復基調にあるのか。次に、新しい人事評価制度を入れて、目標意識やモチベーションにも好影響を及ぼしているとあるが、そのモチベーションをどのように把握して、評価に結びつけているのか。最後に、インターネット等での情報発信について、ホームページを拝見したが、発信が弱いと感じた。小倉南障害者地域活動センターのページにセキュリティ上の脆弱性があるフラッシュプレイヤーが使われており、ホームページの改修及びWeb上での情報発信にもう少し力を入れていただきたい。

(申請団体) 令和3・4年のコロナ禍では活動の制限が多く、入所施設も就労系の方も自粛期間が長かったことから、満足度が下がったと考えている。そこからの回復は、感染対策に気をつけつつ、利用者が何を望んでいるかを細かく聞きながらコツコツ活動した結果と考えている。次に、新しい人事制度は、人と比較するのではなく、個人で目指すべき姿をステージごとに設定し、それを自己で振り返えることで、自分がどの位置にいるのかが見えるものとなっている。自分で振り返るだけではなく、上司も同様に評価する。自己評価と上司の評価は必ず乖離するが、上司と共有することで、職員も自己肯定感や自分の立ち位置に気づく機会を持てるほか、上司との面談の機会を通じて、働きがいややりがいにつながる。

(構成員) 外国人の雇用を積極的に行っているようだが、課題などがあれば教えてほしい。次に、入所者の高齢化で予期せぬことがいろいろ起きると思うが、職員体制が少ない夜間の連携等の対応はどうか。最後に、市

外に職員を派遣したケースがあれば、教えてほしい。

(申請団体) 外国人の雇用では、現在ネパール人3名が常勤で勤めている。皆さん非常に勤勉かつ真面目で戦力としても十分であり、とても助かっている。課題としては、書類関係がある。他の仕事では十分に話せるが、記録や申し送りの時には文字が必要なため、そこに苦勞している。そこから離職につながるため、A I等を使いながら乗り越えていきたい。次に、男女入所者の現在の平均年齢が54～56歳となっており、高齢化や障害の重度化がこれから課題となる。利用者の急変には、マニュアルを備えて対応している。また、そのような事態に備えてアームスという介護ロボットを9台導入しており、利用者の急変にいち早く気づけるように対応している。人手不足で夜勤者の負担がかなり増えており、その軽減と利用者の安心安全を図るため、費用はかかったが補助金を活用しながら導入している。最後の市外への職員派遣については、最近の能登の地震で支援員を派遣している。素早く対応できるように、要請があった時に誰が行くかを事前に決めている。なかなか大変だが、協力要請があれば、積極的に対応していきたい。

(構成員) 報酬改定があり、例えば生活介護では利用時間の延長があると思う。時間延長による職員の負担や賃金の問題は大丈夫か。また、土曜日の開所などもあり、職員の働き方について前よりも大変な部分があると思うが、職場の環境はどうか。最後に、課題は一杯あると思うが、余暇的な支援やアームスといった介護ロボット、デジリハなど新しい取り組みは、利用者もすごく楽しんでいると思う。地域発信や地域と一緒に何かを行うことは、なかなか難しい施設かもしれないが、防災でのつながり以外に地域とタッグ組んだ取り組みは考えているか。

(申請団体) 北九州市内の放課後等デイサービスが夕方6時半まで受け入れており、生活介護も同じような形態でないと、メインで介護している母親が働き続けられないという話を親の会から聞く。職員不足の中、土曜日の常時開所や親御さんが望むような長い受け入れは難しい課題である。生活介護では30分時間を延ばすだけでも、職員の勤務シフトを大きく変える必要があり、非常に苦勞している。やはり職員の負担は大きく、職員からはどうにかしてほしいとの声が出ている。人手不足を解消するため、短時間労働やパートの方を積極的に雇用し、その時間帯に過不足が出ないような形をとっている。最後に、小倉南障害者地域活動センターでは地域の方と共同で行った防災訓練が市政だよりも紹介されたり、地域のお祭りにも積極的に参加するなど、地域に恵まれていると感じる。また、法人が運営する「あゆみひまわり学園」は地域の中核的な役割を担って積極的に活動している。地域との連携は、法人の理念と考えている。今年から開催している地域連携推進会議で、地域住民の方に施設を開くよう指摘をもらっている。これまで、学校関係では出前授業などを積極的に行ってきたが、サロン活動など



地域での建物の活用が行われているかの視点はなかった。今後は、地域住民の方に開かれた施設とするため、いただいた意見を踏まえ、今後しっかり取り組んでいきたい。

(構成員) 工賃(月額)について、過去5年間は、目標の1万円を達成している。大手企業からの受託作業を含めての尽力があったと思う。これからの5年間は、1万5千円以上を目標としているが、工賃を上げる上で新たな取り組みやプランがあれば、伺いたい。

(申請団体) 就労支援B型の利用者の能力向上に特に力を入れており、例えば浄水器の弁を1日50個でも100個でも多くつくれるようにするため、作り方の改善や指導する立場の者がしっかり計画を組むなど、努力をしている。立地上、どうしても農業を行うことが難しく、他で稼ぐために、独自製品を作っており、積極的に販売していきたい。先ほど指摘いただいたネット販売をもっと行うなど、ゆくゆくは福岡県の平均賃金ぐらいにもってきたい。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて、各自項目毎の適否を記入。その後、構成員全員で意見交換。

#### ① 門司障害者地域活動センター

(構成員) 長年に渡り施設運営を行うとともに、引き続き指定管理者として、センターの基本方針である「障害者が地域で安心して暮らすことができる社会の実現」を目指し利用者への支援を進めていると感じた。そして、環境など地域の特性をとらえて連携した取り組みをされており、施設の理念の社会参加を目指す上で、今後も期待できる。

(構成員) 何年も指定管理者として運営されている中で、より良いサービスの充実等を図り、利用者の満足度も高いことから、指定管理者としてこのまま継続してよいと思う。しかし、情報発信の部分では、これからはインスタグラムなどを使いながら、より一層の啓蒙活動などに取り組んでほしい。

(構成員) 障害者一人一人の特性に合わせて、それに沿うように努力されている姿が印象的だった。また、地域の方々との連携やヘドロ除去の素焼き玉づくり、買い物支援バスなど地域と連携を図っている姿は、よく努力されている。

(構成員) 長年の取り組みもあり、安心しておまかせできると思うが、施設の基本理念がちょっと古いと思った。「ハンディキャップを持たれた」という書き方や「自分のことは自分です」、「人に頼らない」との文言は、もう時代が変わっている。提案書なのでどうしても利用者の方を見ているが、職員にすることがあまり書かれていなかったのも、職員が色々と負担を受けているのではとの懸念がある。また、施設で一貫してサービスが受けられることはいいことだが、利用者の抱え込みにつ

ながらいかと少し不安を感じた。ただ、長年、施設を運営しており、安心して任せられると思う。

(構成員) これまでの実績や経験、経緯とともに、利用者への支援や満足度の高さが示されており、職員の専門性向上においても、OJTやOFF-JTなどに取り組んでいる。地域との交流も深めており、妥当と考える。

## ② 小倉南障害者地域活動センター

(構成員) 社会福祉法人として長年の運営実績があり、理念や施設の設置目的も申し分ない。運営体制も考えられており利用者の安全面への考慮もされている。利用者から利用してみたい、それから働く人たちから働いてみたいと思われるように、時代に即した新しい試みを今後も取り入れてほしい。

(構成員) 長年、指定管理者としても、法人としても福祉に携わっており、安心して任せられる。一方で、話を聞きながら、行っていることの魅力であったり、施設の良さが十分伝わりきれていない部分があるので、地域との連携や、情報発信の部分を工夫して、施設の取り組みや福祉に対する理解・利用者の増に積極的に取り組んでほしい。

(構成員) あゆみひまわり学園の譲渡を受け、つばさの会にも関わっている。北九州市でも中核をなすところだと思う。先ほどサービスの利用時間のことを気にした話があったが、サービスが受けられる施設はいろんなところにあり、利用者は選べる立場にある。利用者からの希望を全て受け入れるのではなく、「この時間帯でお願いします」と発信しないと、全部を受け入れていたら、職員の負担が大きくなると心配した。

(構成員) 先ほど「施設の良さが十分伝わっていない」との意見があったが、質問したらいろんなことが出てくると思いながら聞いていた。自慢しないためか、文章だけだと何か伝わりにくかったが、本当にきちんとされていると感じた。

(構成員) 長年の実績と経験、経緯があるとともに、利用者満足度もそれぞれ高い。また有資格者の人数配分をきっちりとデータで示し、専門性向上に向けた取り組みも十分行われている。特に、地域の自治連合会に加盟しながら一緒に取り組まれている点は、とても素晴らしい。適正と評価した。

○ 各構成員の審査結果（両施設ともすべて「適」、「付帯意見なし」）を取りまとめ、検討会を終了